

10月のアルミレポートおよび11月の見通し

橋本アルミ（株） 橋本健一郎 氏



予測レンジ

LME 現物後場買い	1400—1600ドル
スクラップ	0から—5円（前月最終価格より）
為替	118—122円（一か月間）

- ▲ 変わらず
- ▲ 変わらず
- ▼ 円高

■概況

前半は、9月の米ISM指数が3か月連続低下した事、8月の独貿易黒字は196億ユーロに縮小、輸出は前月比5.2%減だった事から中国の景気減速懸念が台頭するなどのマイナス材料もあったが、9月の米雇用統計で雇用者の伸びが市場予想を大きく下回り、米サプライマネジメント協会（ISM）が5日発表した9月の米非製造業景況感指数は前月から2.1ポイント低い56.9と市場予想（57.7）を下回ったことから米連邦準備理事会（FRB）による利上げ開始が年明けにもずれ込むとの見方が浮上。また8月のユーロ圏小売り売上高が前月比変わらず、前年比2.3%増だったことを好感しUP。

10月15日時点1566ドル（現物後場買い）と月初価格から2ドルUPの前半締めとなった。

後半は、9月の米中古住宅販売件数は前月比4.7%増の555万件、予想上回る

10月のユーロ圏PMI速報値は総合が54.0に上昇、製造業PMIは52.0

10月の米製造業PMI速報値は54.0、予想の52.8を上回る。

事などのプラス材料もあったが、ECBのノボトニー氏が金追加刺激策に言及した事からユーロ安・ドル高が加速したこと、9月の中国の鉱工業生産は前年同月比5.7%増加、予想の6%増を下回ったこと、3Qの中国GDP成長率が7%を下回り、6年ぶりの低水準にとどまったことからDOWN

11月6日現在LME（現物後場）1476ドルと後半スタート価格から70.5ドルDOWNしてのスタートとなった。

■前月の経済指標：◆月間のドル/円レート（TT\$）120.83 → 122.03（円）

◆自動車生産台数：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-2.6%の85万11777台であった。

◆自動車販売台数：日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数（軽除く）は前年比+0.2%の24万889台。

◆新設住宅着工戸数：国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+2.6%の7万7872戸であった。

◆貿易指標

輸出：財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比+21.8%の67t、2次合金が

-4.9%の1297t、前月比でスクラップが-5.7%の7907tアルミ缶が-17.6%の3302t。

15年1月からスクラップがスクラップとアルミ缶に仕分けされたため前年比との比較ができず前月比にしております。

輸入：輸入は新地金が前年比-26.5%の9万5253t、2次合金が-12.4%の8万4496t、スクラップ

が-30%の732t、合金スクラップは-47.4%の3570t。

■前月の国内指標：日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-1.3%の17万4149t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績は前年比-4.1%の6万7700であった。

■概況

【自動車生産】9月の四輪車生産台数は828,817台で、前年同月の851,177台に比べて22,360台・2.6%の減少となり、15ヶ月連続で前年同月を下回った。9月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車：-702,380台で11,847台・1.7%の減少となり、15ヶ月連続のマイナス。このうち普通車は427,436台で4,126台・1.0%の増加、小型四輪車は157,018台で6,278台・4.2%の増加、軽四輪車は117,926台で22,251台・15.9%の減少。

トラック：-113,914台で9,873台・8.0%の減少となり、5ヶ月連続のマイナス。このうち普通車は51,874台で5,215台・9.1%の減少、小型四輪車は28,842台で2,032台・6.6%の減少。軽四輪車は33,198台で2,626台・7.3%の減少。

バス：-12,523台で640台・4.9%の減少となり、3ヶ月連続のマイナス。このうち大型は831台で22台・2.7%の増加、小型は11,692台で662台・5.4%の減少。9月の国内需要は479,375台で、前年同月比7.6%の減少であった。（うち乗用車399,760台で前年同月比7.4%の減少、トラック78,226台で同8.6%の減少、バス1,389台で同3.7%の増加。）輸出は前年同月比2.2%の増加。（実績）

【自動車販売】10月の国内自動車販売台数（軽は除く）は24万889台で前年比+0.2%。1か月ぶりプラス。内乗用車0%、貨物+1.1%、バス+8.3%

【住宅着工数】平成27年9月の住宅着工戸数は77,872戸で、前年同月比で2.6%増となつた。また、季節調整済年率換算値では90.0万户（前年比3.3%減）となつた。

住宅着工の動向については、前年同月比で7か月連続の増加となっており、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

反動減の影響が大きかった持家は、前年同月比で5か月連続の増加となつた。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(つづき)

(持家) 前年同月比では5か月連続の増加（前年同月比2.4%増、季節調整値の前月比では0.7%減）。

(貸家) 前年同月比では5か月連続の増加（前年同月比13.3%増、季節調整値の前月比では0.2%減）。

(分譲住宅) 前年同月比では2か月ぶりの減少（前年同月比10.1%減、季節調整値の前月比では9.7%減）。

(分譲マンション) 前年同月比では2か月ぶりの減少（前年同月比22.4%減）。

(分譲一戸建住宅) 前年同月比では2か月連続の増加（前年同月比1.0%増）。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】前年比-4.1%の6万7700t。12カ月連続マイナス。

出荷は-2.3%の6万9937t 19カ月連続マイナス。内出荷先鋸物 -10.2% ダイカスト +1.5% 板 -4.4% 押出 +6.6% 鉄鋼-90.1% 合金地金メーカー +5%

【アルミ圧延・押出品生産数】 -1.3% 7カ月連続マイナス 17万4194t

板類：(1)缶材 37,067t (7.5%)ボトル缶は好調を継続し、一部コーヒー缶のアルミニ化による需要増もあり、6ヶ月連続でプラス。9月としては過去最高を記録。(2)自動車 13,175t (0.5%)国内乗用車生産台数は減少しているが(8月の生産台数：510千台、前年同月比：▲4.6%)、アルミパネル材を採用する主に高級乗用車等の輸出増及びトラック架台の需要増により、プラスに転ず。(3)輸出 17,610t (▲2.8%)海外関連工場への素条輸出に一服感が見られ、18ヶ月ぶりにマイナス。

押出類：(1)建設： 38,724t (▲9.4%)8月の新設住宅着工戸数はプラスとなったが(8月の着工戸数：80,255戸、前年同月比：+8.8%)、建設全体としては15ヶ月連続でマイナス。(2)自動車 11,592t (▲2.6%) 国内乗用車生産台数と連動し、3ヶ月連続でマイナス。

【輸出】アルミ新地金が前年比-21.3%。二次合金が+27.8%。スクラップが-23.8%。アルミ缶が前月比-14.1%。

【輸入】アルミ新地金が前年比-39%。二次合金が-13.6%。スクラップが-32.3%。合金スクラップが-50.9%。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大減少の-2.6%。10月の国内販売台数が前年比+0.2%

生産が15カ月連続マイナス、販売が1カ月ぶりプラス。

生産が1年間以上前年割れとなる中、販売の方が1カ月ぶりに再びプラスに。

今後販売のプラスが続くか注視が必要。

・平成27年9月の住宅着工戸数は77,872戸で、前年同月比で2.6%増となった。また、季節調整済年率換算値では90.0万戸(前月比3.3%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で7か月連続の増加となっており、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

・反動減の影響が大きかった持家は、前年同月比で5か月連続の増加となつた。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数 主力の押出 建設部門の悪化を受けて減少。

唯一期待の輸出がついにマイナス 今後の動向に注視。

・アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績 自動車系の悪化を受けて減少。

ただ自動車販売の方が一か月ぶりにプラスとなっており今後の回復に期待

・輸出 新地金だけが円安を追い風に増加。

・輸入 内需の低迷や円安から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は月を通じて建値が安定したものの中国連休明けへ警戒感から過在庫分が放出したのではないか。一方メーカーは自動車販売がある一定量はあることから必要量の確保ができるない所もあり在庫は薄くなるため、需給は引き締まるとの予測。

【価格・為替予想】

今月は、基本に立ち返って中国の金融および景気対策問題と米国の利上げ問題に左右される。

中国当局は第13次5か年計画でのGDPを+6.5%とし、中国人民銀行は政策金利を0.25%、預金準備率を0.50%引き下げたことある程度の評価に値する。ただこれだけで年内を乗り切れる可能性は低く、新たな公共事業などの景気対策が期待される。

米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でFRBイエレン議長が12月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今後の動向に注目。それらを踏まえた11月のアルミ価格は、中国当局が景気対策に関してなんらかの前向きなコメントを発し、米国が今月の利上げを行わなかった場合、10月高値の1600ドルを予測。いずれかの場合には1500ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合もう一段安値の1400ドル。為替は、米FRBの利上げについて新たに12月説が台頭している。中国株の暴落も落ち着き、ECBは追加金融緩和に前向きなことを考えれば利上げの可能性がある。それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが12月の利上げを示唆した場合、ECBが追加禁輸緩和を始める可能性が高まることや新興国からの資金吸い上げそれに伴うドル高の加速判断から大幅円高の118円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から121円台。

メーカー スクラップ購入価格は0から-5円と予測している

1号 ピ力線

高価買取ます

 杉本金属 株式会社

〒556 大阪市浪速区桜川4-9-21
TEL(06)6561-9071(代)
FAX(06)6567-3648